

防災力を高める



全国初の 危機対処型起震車



緊急走行可能

赤色灯を点灯することで緊急自動車として走行できます。避難の呼び掛けや、巡回広報、現場への急行時に使用でき、通り過ぎた後も情報が聞き取れるよう、後部にスピーカーを装備しています。



「全国初の「危機対処型起震車」を導入しました。特徴は緊急走行ができ、屋外で災害対策本部として活用できること、過去の地震の揺れを再現できることです。地域の防災訓練などに出向くこともできます。詳細は、危機管理課へお問い合わせください。

非常時のオペレーション拠点に 災害対策本部として

車両の展開部分にテントを接続することで、屋外に災害対策本部を設置できます。大規模地震や強い余震の発生などで市庁舎内に設置できない場合のほか、河川の水位確認など現地での災害対策本部として活用できます。

PTO 駆動発電機

走行用のエンジン動力を利用して発電機を駆動させます。緊急時は36kVAの電力供給が可能です。床下ホイールベース間に設置されています。



屋外で本部を設置した場合に求められる電力は、非常用発電機（PTO 駆動発電機）を供給源にし、パソコンや照明、冷暖房などの環境整備が可能に。起震室内のモニターは地デジテレビに切り替え、場面に応じてドローンと併用し情報を収集します。外部との通信用にMCA無線機を搭載しています。

過去に起こった大規模地震をリアルに再現 地震体験車として

過去に日本国内で起きた地震の揺れを体験できる「再現地震」と、今後発生が予測されている「想定地震」を体験できます。再現地震では強弱、縦横などの立体的でリアルな揺れを体験できるため、個々の備えの強化にもつながります。モニターには、緊急地震速報の表示やタンスの転倒など、揺れの大きさに応じた映像を流すことができ、臨場感ある体験を提供できます。

主な「再現地震」と「想定地震」

新起震車は、8種類の「再現地震」、7種類の「想定地震」などが体験できます。



- 想定地震 南海トラフ地震
- 平成23年3月11日 東北地方太平洋沖地震 M9.0
- 大正12年9月1日 関東地震 M7.9
- 平成28年4月16日 熊本地震 M7.3
- 平成7年1月17日 兵庫県南部地震 M7.2
- 想定地震 東南海地震
- 想定地震 南関東地震

LED 投光器

最大5.3mの高さから瞬時に周囲を照らすことができます。旋回角度は約350度。伸縮可能。



LED 文字掲示板

背面に設置され、走行しながら文字で情報提供ができます。



地デジテレビアンテナ

停電時もテレビから情報収集ができます。モニターは体験室内と、AV機器類を取めた場所に計2台設置。ドローンからの映像も確認できます。

